

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
高齢者・障がい者歯科学		歯科衛生士学科/3年	2021/通年	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	藤本 希実子
授業の概要				
障がいがあるということとはどのようなことかを理解し、心身障がい者・要介護高齢者の特徴や歯科的対応について学習する。 障がい者や要介護高齢者に対する口腔衛生管理および口腔機能向上訓練における歯科衛生士の役割について理解する。				
授業終了時の到達目標				
1. 障がい者・高齢者の概念が理解できる。 2. 障がい者・要介護高齢者の全身的特徴と歯科的特徴が理解できる。 3. 障がい者・高齢者における対応や口腔衛生管理の支援ができる。 4. 摂食嚥下リハビリテーションと歯科衛生士の役割が理解できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		歯科衛生士として臨床現場で6年実務経験 介護支援専門員、介護職員として福祉現場で6年の実務経験 これまでの臨床や介護現場での場面を活かし、障がい者や高齢者歯科学の講義を行う		
時間外に必要な学修				
次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて指導する				
回	テーマ	内容		
1	障害の概念	1. 歯科医療におけるスペシャルニーズ 2. 障害の分類 3. 生活機能に特別な支援を必要とする人のQOL 4. ノーマライゼーションとバリアフリー 5. スペシャルニーズの発生とその受容 6. 障害のある人と医療・福祉制度の仕組み		
2	歯科医療で特別な支援が必要な疾患	1. 精神発達・心理的発達と行動障害		
3	歯科医療で特別な支援が必要な疾患	1. 運動障害(神経・筋系疾患)		
4	歯科医療で特別な支援が必要な疾患	1. 感覚障害 2. 音声言語障害 3. 精神および行動の障害 4. その他 障害のある人への虐待		
5	障害者の歯科医療と行動調整	1. コミュニケーションの方法 2. 行動療法(行動変容法) 3. 体動のコントロール 4. 薬物的行動調整法		
6	健康支援と口腔衛生管理 安全管理	1. 専門的口腔ケア 2. 特別な配慮が必要な患者の口腔衛生管理 3. 医療安全管理体制		
7	摂食嚥下リハビリテーションと歯科衛生士の役割	1. 摂食嚥下リハビリテーション 2. 摂食嚥下障害と口腔管理 3. 摂食嚥下障害と栄養管理 4. 摂食嚥下障害の評価法 5. 摂食機能療法		

回	テーマ	内 容		
8	地域における障害者歯科 確認テスト	1. 障害者歯科と地域医療連携 2. 障害者歯科と関連職種 3. 一次医療圏、二次医療圏、三次医療圏における障害者歯科 確認テスト		
9	高齢者を取りまく社会と環境	1. 高齢社会と健康 2. 高齢者にかかわる法制度 3. 高齢者の居住形態・施設および入院設備の特徴		
10	加齢による身体的・精神的変化と疾患	1. 加齢に伴う身体的機能の変化 2. 高齢者の精神・心理的变化 3. 高齢者に多い全身疾患・障害および口腔疾患		
11	高齢者の状態の把握	1. 高齢者の生活機能の評価 2. 高齢者と臨床検査		
12	高齢者の状態の把握	1. 高齢者の生活機能の評価 2. 高齢者歯科と臨床検査 3. 高齢者の栄養状態 4. 高齢者の薬剤服用		
13	口腔のケア 摂食嚥下リハビリテーション	1. 高齢者に対する口腔のケア 2. 有病高齢者への口腔ケア 3. 要介護高齢者への口腔のケア 4. 高齢者のリハビリテーションの概要 5. 摂食嚥下の評価と対応 6. 誤嚥性肺炎の予防のための訓練		
14	高齢者に関わる医療と介護	1. 在宅訪問診療の概要		
15	確認テスト	確認テスト		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
最新歯科衛生士教本 障害者歯科		期末試験	80.0%	
最新歯科衛生士教本 高齢者歯科		出席率	10.0%	
		授業態度	10.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
社会学		歯科衛生士学科/3年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	西岡 浩一
授業の概要				
歯科衛生士として必要な、社会学、衛生行政、社会保険、統計学の基本的な知識を学習する。				
授業終了時の到達目標				
社会学、衛生行政、社会保険、統計学の基礎知識を理解する。 国家試験に相当する問題を解くことができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		社会福祉士としての経験を生かし、社会保障制度、社会保険制度について教授する。		
時間外に必要な学修				
自ら国家試験の過去問題に取り組み、分からないことは調べて学習すること。				
回	テーマ	内容		
1	社会保障	社会保障の役割と機能 社会保障給付費と国民負担		
2	社会保険	医療保険、年金保険、雇用保険、労災保険 介護保険		
3	衛生行政	衛生行政の沿革 衛生行政の組織		
4	衛生関係法	歯科衛生士法 その他の法律		
5	保健医療の動向	健康状態と受療状況 医療関係者		
6	保健情報統計学	疫学の方法論 データの特徴		
7	総合演習	過去問、模擬問題		
8	まとめ、試験	授業のまとめ 期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント配布		出席率 授業態度 期末試験	20.0% 20.0% 60.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
歯科保健指導論Ⅲ		歯科衛生士学科/3年	2021/通年	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	45回	3単位(90時間)	必須	藤本 希実子
授業の概要				
<p>歯科保健指導についての全般的な知識習得と専門的分野のエキスパートを目指す。            歯科保健指導分野において国家試験対策を行う。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>協同でのチーム医療、対人コミュニケーションについて理解ができており、個人から集団までの指導についての応用ができる。            歯科衛生士国家試験合格。</p>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		歯科衛生士として臨床現場で6年の実務経験 介護支援専門員、介護職員として福祉現場で6年の実務経験 これまでの臨床の場や介護現場での場面を活かし歯科保健指導の実践に役立てる		
時間外に必要な学修				
<p>次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する</p>				
回	テーマ	内 容		
1	対象の把握 伝達方法 業務記録	対象の把握 1. 情報収集の種類 2. 調査のための質問紙作成 3. 個人に関する情報の収集 伝達方法 1. コミュニケーション能力 2. 対話法 業務記録 1. 業務記録の意義 2. 記録のとりかた		
2	地域歯科保健活動における健康教育	1. 健康教育の概要 2. 健康教育の進め方 3. 健康教育の方法 4. 健康教育の評価		
3	地域歯科保健活動のフィールド	1. 保育所(園)・幼稚園 2. 学校(小学校・中学校・高等学校) 3. 事業所 4. 保健所・市町村保健センター 5. 地域・病院・施設		
4	全身の健康状態の把握 認知機能の把握	1. 器質的、機能的問題の把握 2. 服薬状況の把握 3. 認知機能の評価方法		
5	生活環境と生活背景の把握 生活環境の把握	1. 社会構造の変化への対応 2. 虐待への対応 3. 食習慣・喫煙・飲酒・睡眠・運動・ストレス 4. 保健行動 5. 受療行動		
6	歯科衛生過程の進め方	1. 歯科衛生過程の概要 2. 歯科衛生過程の各構成要素		
7	歯科衛生過程の進め方	1. 歯科衛生過程の概要 2. 歯科衛生過程の各構成要素		

回	テーマ	内 容
8	歯科衛生過程の進め方	1. 歯科衛生過程の概要 2. 歯科衛生過程の各構成要素
9	歯科衛生過程の進め方	1. 歯科衛生過程の概要 2. 歯科衛生過程の各構成要素
10	歯科衛生過程の進め方	1. 歯科衛生過程の概要 2. 歯科衛生過程の各構成要素
11	歯科衛生過程の進め方	1. 歯科衛生過程の概要 2. 歯科衛生過程の各構成要素
12	<国家試験対策> I 総論	1. 概要 2. 基礎知識
13	I 総論	1. 概要 2. 基礎知識
14	II 情報収集	1. 個人 2. 集団・組織・地域
15	II 情報収集	1. 個人 2. 集団・組織・地域

回	テ ー マ	内 容
16	Ⅱ 情報収集	1. 個人 2. 集団・組織・地域
17	Ⅲ 口腔衛生管理	1. 基礎知識 2. 指導の要点 3. 対象別の指導法
18	Ⅲ 口腔衛生管理	1. 基礎知識 2. 指導の要点 3. 対象別の指導法
19	Ⅲ 口腔衛生管理	1. 基礎知識 2. 指導の要点 3. 対象別の指導法
20	Ⅲ 口腔衛生管理	1. 基礎知識 2. 指導の要点 3. 対象別の指導法
21	Ⅳ 生活習慣指導	1. 基礎知識 2. 指導の要点
22	Ⅳ 生活習慣指導	1. 基礎知識 2. 指導の要点
23	Ⅴ 食生活指導	1. 基礎知識 2. 指導の要点 3. 対象別の指導法
24	Ⅴ 食生活指導	1. 基礎知識 2. 指導の要点 3. 対象別の指導法
25	Ⅴ 食生活指導	1. 基礎知識 2. 指導の要点 3. 対象別の指導法
26	Ⅵ 口腔機能管理	1. 基礎知識 2. 評価 3. 機能障害別の指導法 4. 対象別の指導法
27	Ⅵ 口腔機能管理	1. 基礎知識 2. 評価 3. 機能障害別の指導法 4. 対象別の指導法
28	Ⅶ 健康教育	1. 健康教育の対象 2. 健康教育の要点
29	Ⅶ 健康教育	1. 健康教育の対象 2. 健康教育の要点
30	Ⅶ 健康教育	1. 健康教育の対象 2. 健康教育の要点
31	確認テスト	確認テスト
32	確認テスト解説	確認テスト解説

回	テ ー マ	内 容
33	国家試験過去問題	国家試験過去問題解説
34	国家試験過去問題	国家試験過去問題解説
35	国家試験過去問題	国家試験過去問題解説

回	テ ー マ	内 容		
36	国家試験過去問題	国家試験過去問題解説		
37	国家試験過去問題	国家試験過去問題解説		
38	国家試験過去問題	国家試験過去問題解説		
39	国家試験過去問題	国家試験過去問題解説		
40	国家試験過去問題	国家試験過去問題解説		
41	国家試験過去問題	国家試験過去問題解説		
42	国家試験過去問題	国家試験過去問題解説		
43	国家試験過去問題	国家試験過去問題解説		
44	国家試験過去問題	国家試験過去問題解説		
45	確認テスト	確認テスト		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論		期末試験 出席率 授業態度	80.0% 10.0% 10.0%	



科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
歯科診療補助論Ⅲ		歯科衛生士学科/3年	2021/通年	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	45回	3単位(90時間)	必須	
授業の概要				
歯科診療における基礎知識(歯科領域に必要な臨床検査、画像検査)について 歯科衛生士がかかわる医科疾患患者について(主な全身疾患とその対応、周術期における歯科診療の補助、歯科訪問診療における対応) 1・2年次に学習した歯科診療の補助の知識と技術の再確認 国家試験対策				
授業終了時の到達目標				
臨床検査の目的と各種検査法について説明できる。 バイタルサインの測定と評価を実施できる。 画像検査法とその補助について説明できる。 口腔内写真の撮影と管理を実施できる。 主な全身疾患の概要や口腔所見の特徴と診療での注意点を説明できる。 周術期における口腔機能管理の概要を述べるができる。 周術期の病態とその治療法を説明できる。 周術期の歯科治療時の役割を説明できる。 手術における術前、術中、術後の歯科衛生士の対応を説明できる。 歯科訪問診療の概要を述べるができる。 必要な器材・薬剤と治療の流れを説明できる。 診療時の適切な患者対応を説明できる。 訪問診療における感染予防対策を説明できる。 訪問診療における口腔健康管理を説明できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		歯科衛生士として14年の実務経験 これまでの臨床における患者との関わりやチーム医療の場面を教材として、社会のニーズに応える意識づけと歯科診療の補助の知識や技能を指導する。		
時間外に必要な学修				
次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する。				
回	テーマ	内 容		
1~3	歯科領域に必要な臨床検査	1. 臨床検査の補助の目的、役割 2. 検査の準備と患者への説明 3. 検査の種類 1) 生体検査 2) 検体検査 3) 口腔領域の検査		
4	臨床検査値	1. 血液学検査 2. 生化学検査 3. 免疫学的検査 4. 病態と代表的な検査との関連 5. 特定健康診査 6. 腫瘍マーカー		
5~7	画像検査	1. エックス線写真撮影 1) 口内法エックス線撮影 2) パノラマエックス線撮影 3) 頭部エックス線規格撮影 4) 歯科用コーンビームCT (CBCT) 撮影 2. 口腔内写真撮影 3. 画像の管理		

回	テーマ	内容
8	主な全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点	代謝・内分泌疾患 1) 糖尿病 2) 骨粗鬆症 3) 甲状腺疾患
9	主な全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点	消化器疾患 1) 胃・食道逆流症 (GERD) 2) 胃炎と胃癌 3) 胃潰瘍・十二指腸潰瘍 4) 肝炎・肝硬変
10	主な全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点	循環器疾患 1) 心疾患・不整脈 2) 高血圧・低血圧
11	主な全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点	血液疾患 1) 貧血 2) 白血病 3) 血友病
12	主な全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点	呼吸器疾患 1) 肺炎・誤嚥性肺炎・呼吸器感染症 2) 気管支喘息 3) 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) 4) 肺結核 5) 睡眠時無呼吸症候群 (SAS)
13	主な全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点	腎・泌尿器疾患 1) 腎疾患 2) 前立腺疾患
14	主な全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点	免疫・膠原病 1) アレルギー 2) 膠原病 (シェーグレン症候群を除く) 3) シェーグレン症候群 4) アトピー性皮膚炎
15	主な全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点	感染症 1) ウイルス性肝炎 (急性、慢性の違い) 2) カンジダ症 3) AIDS
16	主な全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点	神経系疾患 1) 脳血管疾患 2) てんかん 3) 認知症 4) 神経難病
17	主な全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点	精神疾患 1) 心身症・神経症 2) うつ病 3) 統合失調症 4) 発達障害

回	テ ー マ	内 容
18	主な全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点	がん 1) がん 2) 口腔がん
19	主な全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点	産科・婦人科疾患 1) 妊娠による変化 2) 更年期障害

回	テーマ	内 容		
20～ 21	周術期における口腔機能管理	周術期口腔機能管理の概要 1) 対象となる患者 2) 周術期口腔機能管理の流れ 3) 周術期における医療連携 病態の把握 1) 化学療法・放射線治療 2) 全身麻酔下で行う悪性腫瘍患者における外科療法治療時の対応 1) 周術期の歯科治療への対応 2) 専門的口腔衛生処置の実施		
22～ 23	歯科訪問診療補助	歯科訪問の診療補助の概要 1) 歯科訪問診療の概要 2) 歯科訪問診療の対象者 3) 歯科訪問診療の内容 歯科訪問診療の流れ 1) 歯科訪問診療の基本的な流れ 2) ポータブルの診療セット 3) 診療に必要な器材 4) 歯科訪問診療における感染予防対策 5) 訪問先とのコミュニケーション		
24～ 25	国家試験対策	歯科診療で扱う歯科材料		
26～ 27	国家試験対策	医療安全と感染予防		
28～ 29	国家試験対策	歯科診療補助の概念 歯科診療における基礎知識		
30～ 40	国家試験対策	歯科臨床と診療補助		
41～ 45	国家試験対策(総合)	まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
最新歯科衛生士教本 2版 (医歯薬出版)	歯科診療補助論 第2版 (医歯薬出版)	出席率	5.0%	
最新歯科衛生士教本 2版 (医歯薬出版)	歯科材料 (医歯薬出版)	確認テスト	15.0%	
最新歯科衛生士教本 2版 (医歯薬出版)	歯科機器 (医歯薬出版)	期末試験	80.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
歯科予防処置論Ⅲ		歯科衛生士学科/3年	2021/通年	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	45回	3単位(90時間)	必須	井口 和美
授業の概要				
人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために専門的な知識・技術、および態度を習得する。う蝕予防処置法の実習、グレーシー操作の基本操作、アセスメントの知識などを踏まえ、総合的に学習する。				
授業終了時の到達目標				
1. これまでのう蝕予防処置の知識を基に、う蝕活動性試験の種類・実施方法・目的を説明できる 2. 歯牙・粘膜・歯周検査から、口腔状態にあった口腔清掃法や清掃用具の選択ができる 3. 歯科衛生過程の学習をもとに、症例検討し、歯科衛生診断が行える 4. あらゆる情報に惑わされることなく、常にクリティカルシンキングが習慣化できる				
実務経験有無		実務経験内容		
有		歯科衛生士としての、資格・業務経験をもとに知識・技術を学生に教授する		
時間外に必要な学修				
次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する。				
回	テーマ	内 容		
1	キュレットスケーラー操作 グレーシータイプ(相互実習)	キュレットスケーラー操作復習(ファントム使用) 1) ポジショニング 2) 操作角度・操作幅・側方圧		
2~ 3	キュレットスケーラー操作 グレーシータイプ(相互実習)	3 3番歯~4 3番歯(唇側・舌側) 1) ポジショニング 2) 操作角度・操作幅・側方圧		
4~ 5	キュレットスケーラー操作 グレーシータイプ(相互実習)	1 3番歯~2 3番歯(唇側・口蓋側) 1) ポジショニング 2) 操作角度・操作幅・側方圧		
6~ 7	キュレットスケーラー操作 グレーシータイプ(相互実習)	4 4番歯~4 7番歯(頬側・舌側) 1) ポジショニング 2) 操作角度・操作幅・側方圧		
8~ 9	キュレットスケーラー操作 グレーシータイプ(相互実習)	3 4番歯~3 7番歯(頬側・舌側) 1) ポジショニング 2) 操作角度・操作幅・側方圧		
10~ 11	キュレットスケーラー操作 グレーシータイプ(相互実習)	1 4番歯~1 7番歯(頬側・口蓋側) 1) ポジショニング 2) 操作角度・操作幅・側方圧		
12~ 13	キュレットスケーラー操作 グレーシータイプ(相互実習)	2 4番歯~2 7番歯(頬側・口蓋側) 1) ポジショニング 2) 操作角度・操作幅・側方圧		
14~ 15	キュレットスケーラー操作(下顎) グレーシータイプ(相互実技試験)	1) ポジショニング 2) 操作角度・操作幅・側方圧 3) スケーラー番号		
16~ 17	キュレットスケーラー操作(上顎) グレーシータイプ(相互実技試験)	1) ポジショニング 2) 操作角度・操作幅・側方圧 3) スケーラー番号		
18~ 19	小窩裂溝填塞 相互実習	2年次で学んだ手順に従い、小窩裂溝填塞の相互実習		
20	う蝕予防処置法 う蝕活動性試験	う蝕活動性試験の意義・条件・目的		
21	う蝕予防処置法 う蝕活動性試験	う蝕活動性試験の種類と活用法		

22	う蝕予防処置法 う蝕活動性試験（実習）	1) RDテスト 2) カリオスタット		
23	う蝕活動性試験 国家試験対策	過去問題プリント 解説		
24	歯周病 事例 グループワーク	1) 検査結果や口腔内所見をもとにアセスメントを行う		
25	歯周病 事例 グループワーク	1) 症例の歯科衛生診断		
26~ 27	総合実習 相互実習	1) グレーシータイプ実習 2) 超音波スケーラー 3) PMTC		
28~ 29	歯科予防処置論（国試問題）	過去問題プリント 1) 歯周組織 2) 歯肉炎・歯周炎		
30~ 31	歯科予防処置論（国試問題）	過去問題プリント 1) 付着物・沈着物		
32~ 33	歯科予防処置論（国試問題）	過去問題プリント 1) 手用スケーラー ポジショニング		
34~ 35	歯科予防処置論（国試問題）	過去問題プリント 1) 超音波スケーラー 2) エアスケーラー		
36~ 37	歯科予防処置論（国試問題）	過去問題プリント 1) 歯周基本検査 2) アタッチメントレベル		
38	歯科予防処置論（国試問題）	過去問題プリント 1) 付着歯肉幅		
39	歯科予防処置論（国試問題）	過去問題プリント 1) 歯肉縁上歯石 2) 歯肉縁下歯石		
40	歯科予防処置論（国試問題）	過去問題プリント 1) プラーク形成過程 2) グラム陰性菌 陽性菌		
41	歯科予防処置論（国試問題）	過去問題プリント 1) シャープニング		
42	歯科予防処置論（国試問題）	過去問題プリント 1) 歯面研磨		
43~ 44	歯科予防処置論（国試問題）	過去問題プリント 1) 全身疾患と歯周病リスク		
45	確認試験			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
歯科予防処置論 歯科保健指導論 第2版 一般財団法人 全国歯科衛生士教育協議 会 監修		出席率 授業態度 確認テスト 期末試験	10.0% 10.0% 10.0% 70.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
テーマ研究論		歯科衛生士学科/3年	2021/通年	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	武田 和代
授業の概要				
口腔保健の範囲の中から、自分自身で興味のある問題または必要と思われる分野を見出し研究のテーマを設定する。				
授業終了時の到達目標				
自分自身で興味のある分野をもう少し掘り下げて自ら学習することにより、卒業後もその分野において興味をもち専門職として従事することができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有				
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1	研究テーマを考える	自分自身で興味のある問題、または必要と思われる分野を見出し、研究のテーマ案を考える。いかに研究テーマを見出すか。		
2	テーマを絞り込む 最終的にテーマを決定する	前回、テーマ案を考えた中から絞り込む		
3	研究の準備	研究に役立つ文献の検索		
4	プレゼンテーション資料の作成	パワーポイントの使用		
5	プレゼンテーション資料の作成	パワーポイントの使用		
6	プレゼンテーション資料の作成	パワーポイントの使用		
7	プレゼンテーション資料の作成	パワーポイントの使用		
8	プレゼンテーション資料の作成	パワーポイントの使用		
9	プレゼンテーション資料の作成	パワーポイントの使用		
10	プレゼンテーション資料の作成・原稿の準備 プレゼンテーションの仕方	パワーポイントの使用		
11	プレゼンテーション資料の作成・原稿の準備 プレゼンテーションの仕方	パワーポイントの使用		

回	テ ー マ	内 容		
12	プレゼンテーション資料の作成・原稿の準備 プレゼンテーションの仕方	パワーポイントの使用		
13	プレゼンテーション資料の作成・原稿の準備 プレゼンテーションの仕方	パワーポイントの使用		
14	プレゼンテーション	パワーポイントの使用		
15	プレゼンテーション	パワーポイントの使用		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
教科書は使用せず、教科書から抜粋したプリントを使用して学ぶ		課題・レポート 出席率 授業態度	60.0% 20.0% 20.0%	次回の授業内容を踏まえて予習する。



科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
国家試験対策		歯科衛生士学科/3年	2021/通年	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	4単位(60時間)	必須	藤本 希実子
授業の概要				
歯科衛生士として必要な習得し、国家試験合格を目指す。				
授業終了時の到達目標				
歯科衛生士国家試験に合格できる知識を習得する。				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
次回の授業内容を踏まえてテキストを予習する。				
回	テーマ	内 容		
1	歯・口腔の構造と機能	口腔付近の解剖学		
2	歯・口腔の構造と機能	口腔付近の解剖学		
3	歯・口腔の構造と機能	口腔付近の解剖学		
4	歯・口腔の構造と機能	口腔付近の解剖学		
5	歯・口腔の構造と機能	口腔付近の解剖学		
6	歯・口腔の構造と機能	口腔付近の解剖学		
7	歯・口腔の構造と機能	確認テスト		
8	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	総論		
9	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	総論		
10	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	口腔清掃		
11	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	口腔清掃		
12	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	う蝕の予防 歯周病の予防 その他の歯科疾患の予防		
13	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	う蝕の予防 歯周病の予防 その他の歯科疾患の予防		

回	テ ー マ	内 容
14	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	歯科疾患の疫学と歯科保健統計
15	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	歯科疾患の疫学と歯科保健統計

回	テ ー マ	内 容		
16	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	歯科疾患の疫学と歯科保健統計		
17	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	地域歯科保健活動		
18	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	地域歯科保健活動		
19	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	確認テスト		
20	歯・歯髄・歯周組織の疾患と治療	保存修復治療		
21	歯・歯髄・歯周組織の疾患と治療	保存修復治療		
22	歯・歯髄・歯周組織の疾患と治療	保存修復治療		
23	歯・歯髄・歯周組織の疾患と治療	歯内療法		
24	歯・歯髄・歯周組織の疾患と治療	歯内療法		
25	歯・歯髄・歯周組織の疾患と治療	歯内療法		
26	歯・歯髄・歯周組織の疾患と治療	歯内療法		
27	歯・歯髄・歯周組織の疾患と治療	歯周治療		
28	歯・歯髄・歯周組織の疾患と治療	歯周治療		
29	歯・歯髄・歯周組織の疾患と治療	歯周治療		
30	総まとめ	確認テスト		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
歯科衛生士国家試験問題集 試問題研究会 夏の麗人 国試の麗人Ⅰ・Ⅱ		期末試験 出席率 授業態度	80.0% 10.0% 10.0%	